

2009年9月1日

2009年度

### 財団法人守谷育英会研究助成候補者推薦要領

#### 1. 助成の趣旨・目的

当育英会の研究助成の趣旨・目的は、その研究成果が直接経済効果の対象とならない基礎科学分野に属する研究に対し、特に助成することを考えております。

従って、公的機関、大企業等で行っている先端技術の開発や大規模な研究を対象とするものではありません。

また、「研究助成金」という名称を付けておりますが、育英奨学金が学生の修学を支援することを目的としていると同様に、研究助成金は交付対象者が異なるだけで、研究者の研究を支援することを目的としておりますことをご理解ください。

#### 2. 助成金候補者の資格

助成金候補者は、次の条件を具備する個人（学部生、大学院生及び研究生は対象外）とします。

- ①東京都内の大学もしくは研究機関に在籍、または東京都内に居住し大学もしくは研究機関に在籍して、基礎的分野の学術研究に従事する個人であること。
- ②申請者の助成金交付の開始時の年齢が、原則として満40歳未満であること。

#### 3. 助成課題（テーマ）

次のとおりとします。

- (1) 自然科学、特に動植物に関する基礎研究
- (2) 工学における基礎研究
- (3) 社会、環境、福祉等に関する基礎研究
- (4) 人文科学における基礎研究
- (5) 現代教育に関する諸問題の基礎研究

#### 4. 助成金額

- ①1件当り助成金額は、年間120万円を標準とします。
- ②助成件数は、年間、5件～10件とします。
- ③今年度の助成金総額は、2,000万円の予定です。

#### 5. 助成金交付申請および推薦方法

- ①当育英会の所定用紙にて申請願います。
- ②推薦者は各大学の学部長、研究所長、または担当主任教授とします。  
但し、推薦件数は、1推薦者1件とします。

- ③交付申請及び推薦の締切日は、2009年12月25日(金)当日の消印まで有効です。
- ④過年度選考にもれた方も、再度申請することが出来ます。

#### 6. 選考方法

- ①当育英会の選考委員会による書類審査及び面接の上、理事長が決定します。
- ②選考結果は、2010年3月上旬、申請者及び推薦者に対し文書により通知します。

#### 7. 助成金の交付と使用報告

- ①助成金は交付対象者の指定する銀行等の口座に、原則として分割により振込みます。  
尚、助成金は分割交付を原則としますので、2回目以降の交付を受ける前に、中間報告書を提出願います。この中間報告がないと、2回目以降の交付を停止することがあります。  
また、虚偽その他不正な手続きによることが判明した場合は、既に交付した助成金の返還を求めることがありますのでご注意願います。
- ②助成金の使途は研究目的を達成するために必要なものであれば概ね自由としますが、その使途についての報告書を当育英会宛に提出願います。

#### 8. 研究成果の報告

当育英会に研究成果報告書を提出願います。学術論文の抜刷や、講演会における講演概要でも結構です。

- ※ 提出された交付申請書は、ご返却致しかねますのでご了承下さい。  
尚、添付資料はご要望によりご返却致します。

#### 《個人情報取り扱いに関して》

当財団は、ご提出頂いた申請書に記載された個人情報を、選考や事務連絡に使用致します。  
また、収集した個人情報は適正に管理し、ご本人の同意なく無断で第三者に提供することは致しません。

#### 《応募先および問い合わせ先》

〒103-0028 東京都中央区八重洲1-4-22  
財団法人 守谷育英会  
TEL: 03-3271-2734

以 上

## 研究助成事業

助成の対象となった研究題目は次の通りです。

### (1) 2005年度(6件)

- ① 魚類の寿命決定因子に関する研究
- ② 交染絹布の可視紫外反射スペクトルおよび三次元蛍光スペクトル
- ③ 光合成明反応における光エネルギー変換特性の電気化学的計測
- ④ 細胞内カルシウムによる情報符号化アルゴリズムの解析
- ⑤ 牛の繁殖状態と卵巢中の胞状、前胞状卵胞数およびエストラジオール濃度の関係
- ⑥ 心臓支配交感神経の動態を解析し、新しい視点からの心不全治療を確立する

### (2) 2006年度(8件)

- ① 戦国秦における青銅兵器銘文の基礎的研究—「物勒工名」を中心に—
- ② カラスの鳴き声における個体差と地域差に関する研究
- ③ 金属元素に起因する日本画用和紙の焼け現象解明と新抑制法の開発
- ④ 結晶構造データベースを活用した材料機能予測
- ⑤ 海洋性のトゲウオ亜目魚類の繁殖行動に関する進化学的研究
- ⑥ 河川におけるアンモニア酸化古細菌の分布と遺伝子多様性の評価
- ⑦ 細胞内カルシウム情報によるタンパク質合成の調節機構解明
- ⑧ 日本で実験動物化された食虫類スルクスの歯胚形成の分子メカニズム

### (3) 2007年度(8件)

- ① カラスの鳴き声に関する個体差の意味—カラスは誰と何を話しているのか?—
- ② 明治期における仏教教団の経済活動
- ③ マダガスカル辺境におけるバオバブの特殊景観の保存に関する研究
- ④ 顔料中の金属元素に起因する日本画用紙焼け部分の微細構造解析
- ⑤ 哺乳類造血発生における胎児型から成体型造血への移行機構の解明
- ⑥ 生体内水分子の移動におけるマスト細胞の役割に関する研究
- ⑦ イヌとのふれあいによる男性受刑者の社会復帰支援
- ⑧ ぜん動運動する昆虫の背脈管組織の生体外運動制御法に関する基礎研究

### (4) 2008年度(8件)

- ① 骨格筋Ca-ATPaseの機能単位形成メカニズムの解明を目指して
- ② カラスの音声コミュニケーションに関する環境への適応能力の検証
- ③ E・キューブラー=ロスを起点とする生と死の教育の日米比較研究
- ④ 受刑者の社会復帰教育におけるイヌとの触れ合いの効果
- ⑤ 小鳥の性成熟と歌学習臨界期に関与する神経ペプチドの固定と機能解析
- ⑦ IP3の内在水擬似分子による細胞機能の制御機構の解明
- ⑧ 鳥類における雄親の繁殖への貢献と雌親の育児負担の関連性

# 研究助成金交付申請書

財団法人 守谷育英会 御中

下記の研究について、助成金の交付を申請します。

新規	再申請	継続
----	-----	----

年 月 日

## 研究分野 (該当に○印)

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 自然科学、特に動植物に関する基礎研究   | 5. 現代教育に関する諸問題の基礎的調査研究 |
| 2. 工学における基礎研究           | 6. 学術専門書の出版の補助         |
| 3. 社会、環境、福祉等に関する基礎的調査研究 | 7. その他上記項目に関する基礎的調査研究  |
| 4. 人文科学における基礎的調査研究      |                        |

## 研究の題目

## 研究目的 (内容はできるだけ平易に記述して下さい。)

## 研究方法

## 研究の期間

## 研究の学術的価値

## 研究の社会的有用性

この研究は日本又は外国で既に行われていますか。

この研究の終了後、今後の進むべき方向はいかが考えていますか。(希望又は夢でも可)

研究費総額		年間 合計	万円 ( 確定 ・ 見込 )	
他機関からの助成 ( 有 ・ 無 )		有の時	万円	機関名
助成希望金額				使途予定 ( 具体的に )
1. 設備備品			万円	
2. 消耗品費			万円	
3. 旅 費			万円	
4. 謝 費			万円	
5. その他			万円	
希望額合計			万円	
交付希望時期	初回 ( 年 月 )		万円	中間報告書提出予定
	2回目 ( 年 月 )		万円	中間報告書 年 月
	3回目 ( 年 月 )		万円	中間報告書 年 月
	4回目 ( 年 月 )		万円	中間報告書 年 月
				最終報告書提出予定
				最終報告書 年 月
この研究に関連する研究に対し、過去3年以内に他機関からあった助成について				
研究機関	研究テーマ	金額	期 間	
文部科学省科学研究費				
国公立機関委託研究費				
財団等の助成金				
研究業績 ( 関連する研究論文があれば、抜刷を1部添付して下さい。 )				
年月日	論文または著書のタイトル	掲載紙	主要内容	

申請者 (研究者)	氏名	印		生年月日	年	月	日
	住所	〒		年齢	歳(男・女)		
TEL: - -		E-MAIL:					
大学又は 研究機関	名称		職名		学位		
	所在地	〒		TEL: - - E-MAIL:			

申請者の略歴 (大学入学以降の学歴と職歴を記入して下さい。)

年 月  
年 月  
年 月  
年 月  
年 月  
年 月  
年 月  
年 月

共同研究者

氏名	生年月日	所属機関・職名	卒業大学・年次	学位・取得大学

申請書記載上のご注意

1. 楷書・算用数字にてご記入下さい。
2. 年号は、西暦をご使用下さい。
3. 黒インクまたは黒ボールペンをご使用下さい。

推薦者氏名	印	職名	
研究機関		学位	

推薦理由（自筆にてお願い致します。）

1. 研究開発の必要

2. 目的実現の可能性

3. 研究助成の緊急性

4. 研究の社会的有用性

5. 上記各項目以外で、当育英会の助成金を受けるに当たり、必要な事項